

# 二水記

第五

内閣文庫	
番號	和 15676
冊數	27 ( 5 )
函號	163 9

内閣文庫	
一五七六號	和
二七冊	書
一三架	類

(五和)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



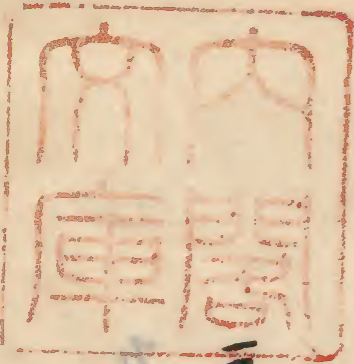
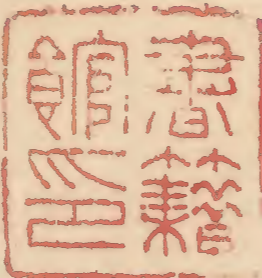
二水記

永正十六年  
自十月至十二月

庫	文	閣	内
一六三函	一五七六號	二七冊	和書類
一架			

(五才)

中五



十月小永

淺草文庫

和學講談所

一日壬天晴日暖朝食か姉小路有相伴彼官人振  
舞に晩着直衣衣内沙盆入衣二衣之如  
例中務之文令系給報し方御呈立下方  
不令以候

二日孟浪小家塗壁一垣日野有使者来古御即位日  
特定之九日所治定也示之入夜衣内御衣子御  
孟如恒親王所方所不衣の沙妻正衣之取  
御嚴重

三日垣中山有沙入者之日沙之来也之領状吻  
故中納之入送号藤才三廻之有宿下之衣為候少  
之男倍中之日招清之御為之向原格序の即位

乃事之侯一柳又有孟酌

吾于後向庭田亭有鞠會之旨花園以之半夜有  
扣門者何事以清肝之延菊亭西相錢及令孫  
之玉冠亦在後亭同忘其向取出思物事也  
雖而方不被拾也今兼迷之疑言語乃斷愁腸  
之恨志之之友大方親也息黃門靴士仕之奇  
彼之処め以表出來不定言志兒女頓死之及一  
言之妄執令推察志之及列力知音くうら  
仕與亦く之後令一俄作天流之之甲一果之之  
情之哀

二日泰南舊也事

八日向中法門亭有叙位乃礼晚帰家

九日先人御正忌招情僧一午後向中山亭御即位

向事申後日記次牙亦令板見晚以均家

十日盡程向正親町亭有叙位莒又之乃礼少時均

夷獨之程著直衣亦内之夜出即位鼎定日擬

侍候定之若力見物と亦以一成刻計三條

宰相中将竟奏慶不經床子座亦直進立至

名門亦舞踏如常以次花人中物至源諸仲

也候如上堂上

出上戸余亦清下如言亦亦封而之換數以孟退云

之後陰陽以左富胡長奏慶也一様舞一

退出是路尸次源諸仲也抑此慶く一近平道

遊くく之若官拜仕已經物之と更ゆり也

内即位時定擬侍候事

三條(了)慶慶後

陰陽以左富奏慶

或合之衣せ候上殿  
去候如上堂上り

別希有之... 族是也  
... 爲之... 雖...  
... 遊... 進...  
... 年... 商...  
... 又... 理...  
... 又... 見...  
... 親... 相...  
... 息... 幼...  
... 不... 見...  
... 子... 庇...  
... 北... 斜...  
... 也... 光...  
... 揖... 以...  
... 退... 入...  
... 更... 揖...  
... 對... 揖...  
... 揖... 以...  
... 退... 入...  
... 更... 揖...  
... 對... 揖...  
... 揖... 以...  
... 退... 入...  
... 更... 揖...  
... 對... 揖...

揖以并退入次...  
... 車... 揖...  
... 退... 下...  
... 着... 陣...  
... 書... 同...  
... 事... 右...  
... 日... 特...  
... 納... 長...  
... 才... 不...  
... 宰... 相...  
... 禱... 之...  
... 每... 年...  
... 揖... 以...  
... 退... 入...  
... 更... 揖...  
... 對... 揖...  
... 揖... 以...  
... 退... 入...  
... 更... 揖...  
... 對... 揖...



恒殿上堂か上戸之系所下有比對面後すか云々  
不見退出又向下冷泉亭御有盃酌有る對面以下有  
仗告坊城云兵束縛已令系所外快束束すも  
仁有為也之に予て系所にて坊城被示雖也  
免快乾法事願て之系所にて茶一少令月  
道彼彼系上了予か二系所之御有由法而  
代女家礼令系所にて予お傍より大由金  
剛沈多悲皆為沙只入我連て可系上  
必每事依之令期法家系所か多能て系上  
條則兵束縛奉仕所裝束下官作法前  
裝束所衣文一か所外有盃酌後兵束縛  
令退出予祈之し有作系不退下志中

申出の初之拜也

申出の初之拜也  
御出の初之奏慶之の為見也又系材中少難又  
亦本布衣侍人百具之應はた多きなり經上壇の上堂上  
御對面不見退出又系所下の時申出御出病  
下令拜願三拜一少二拜一即系上有沙對面也後  
中申出の初之着云御之座次外并於御取書書  
授杖奏之と覽後一通後并退更か又奏書書  
如初官方初方又退大外就師家初下持信系上被  
通て初後の尋一退大外就師家初下持信系上被  
覽一退入次大御之退下乾後及盃酌系の直出  
姿上座五外座柄の授けり方室之令退出後すか云々  
か子取之見也初法次義一子刻許之由之門路以之  
根先月梅五位先之持三人外初法性寺五位次九  
少并初法性寺遠初長初法性寺初法性寺初法性寺

地下お馳三人置取相用次近束奉一奉多取相用主人

次之君以書長奉延廣將相懸裾六人隨以次布

衣不為次扈從公卿中出因而之去就之去處持

是日下殿上而馳各取相用前行白之部而以下經

上官應書長人九吏揖三宿持三宿行超道着者九一九對指兼起一殿下進

行令立名口お給花人一中并委房即出

次小揖射揖退退今名口從東一間屏書長

尚上上停立年中行事障子邊以并出奉全量盛

妻戸伯少時又今出給何事い石知押奴おい并射

而い矣兼言承く卒今之後い後任口裏書戸

簾後下令入給後子出いの二作の内侍又

從由平鏡子出

于胡餉了着書為具次被一書礼人依有口格子下有入口

後口侍裏簾次退下今云此後月色相白依子其

德在傍不暈見番長の書退お其書取

申尅許い

十四日赤亥書赤女常女三交有口差公事すけ取入

夜赤内の亥子出女常

十五日入夜赤伏見夜侍日一宵程柳又向正親町許

有孟酌

十六日為准后書礼之系近束多口近邊之相酌後出

冷白水お書口少口庭田之倉出口之系口之各口出

乃之程各口之特之持口断之院改衣裳着直書系

則有口之書孟酌二三及各口令口解口鞠口也及



昏久帰家

十七日午終刻赤青蓮院門内入室後初夜之鐘及  
数年依之合は子系以ておとむる有口鞠入夜  
酒宴及五更之方宿門内

十日未明從門内退しけり勝院有對面雜談  
續可長律有申之良久談世事頂之并出限半  
酒傾八九盃一に酔す術拙後遂電歸家為  
宿

十九日十日、法會より被せり  
廿日赤己の赤常  
廿日今夜少あり之慶慶宿所就之并從此亭之  
この相海座あり極一午時赤己の赤常

於小所之如常一朗誦能て人教唱一及

詞曲依人反 黃鐘調 以五作筆親之四方望中務之宮隆康

桃李花二花只 海青系三五 山科三位基親重親宗有末親位

喜春玉破 松翠系 自鳥急 後基親 統秋初下景通 宗範 依位

河南浦 平信高 程向少あり時冷泉あり一兼別着紫束常

劍 被移け亭先是小倉坊城下冷泉あり之至

姉小路極高木入来之西相あり兼出座給則有勸盃

各之起座し玄魁許出門先く如ゆ之着束常 依位

從西園寺之行 献皆次下地有家稱 次白如ゆ之指

對揖 持方 次出門 行列 主人女不常 依位

皇持雜也 少納之 於四足門下久及前声 女不常 依位

後乞取松月前行次往弓場代立名向江供伴遂  
揖次對揖退入頂之帰出揖又對揖以退公拜舞  
其儀女常後從了也正堂上所有對面後中  
言有少時退出お駈御缺皆女先至印後の巻経中  
河内亭後後並酌一二及之事以事之

前駈笠持可在小雜色にお沙否事各有注念  
多の丘前く但今夜お駈可在後ふの如  
笠持日可在後心先此の合儀定一の儀女  
何程で尋

廿四日高番々相傳五条  
廿五日午後向山科亭月次連立其常以人為也入衣  
系大飲沙口家上薦沙乃近日依経服の籠兵景

華院沙比仁尼云四五人入来及敷反有而宴  
廿六早且一盞及敷反一解醉犯也術午時番口有  
湯楊弓入夜亥子一而礼也今朔亥御一樂  
不系山

廿七日喰以々系沙方以取小御下沙鞠之儀  
廿九日午前高向於沙之有沙連方沙法也  
主上沙川直衣之今日世人敷之入和果  
外極名中山中御一人作也此等と及把替云有  
小漬

十一月六

一日晴晴系為壽事涉益之安女削

言入凡品合本人数十人作之攻家向中内山亭有晚

飯中何凝各醉之の体之大更傾教益表声之狂年

不説之矣亦以不并之宿柳原亭

三日於私宅有往生海老母親<sup>貞子</sup>二十五年之傳衣三

口之招法之又近多傳衣之少多入平御書五

有之舞之各退散一年後系内自月以書自去は

奥之朝已所系運河有出着者之安河の法法示之

召之運河入系又系涉方以所有山岳應<sup>三</sup>中之君

後所成到并各清之至親納下後之

大食調

打毬亦只 傾孟于急三反 沙五爪望歌王巾方日中務之文更道前而之九  
仙持龍 右平示急三反 予伯三伯山科三位立親賢能宗友王都下  
板以三反 廣人三臺三反 橋以三反 橋以三反 橋以三反  
長慶子 錫人四列大 昌統祐那 景花六 越秋安甲 魯音

胃已刻 許系伏見有沙鞠為多并 妙如宗年後宗  
田飛多并中將程山橋沙庭有沙鞠中務之官之系  
絡各沙下婆之自上右沙言人鞠之度於此交御不

孟酌一二反有之雅懇之預裁沙孟刻以前有殺  
尋作亦未之反之退出入在系新典傳九局七百  
沙六停此今系之臣之而退出後有孟酌殺之

沈解 一 号新由侍の橋實以之  
是世の情子  
五日春内有出揚弓以之反前各有沙中清以持之  
庚方氣 之白庚方之の礼之例の之系之程山之新大和宗

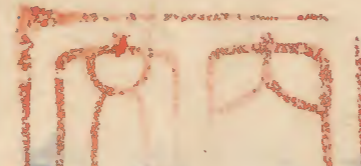
お中細の情中細之四寸中細之予伯三位信實信  
力史

并字取以在中身秀房朝臣重親幼下院之信法仲  
橋以三反也

六日入衣白正親町三系亭有田樂一盞一人歸家  
七日亦為番有沙揚弓入夜入道之系於沙三言  
沙孟酌一二反有之

九日於橋中庭有出鞠為多并中將之程山之蓮院後院  
風吹不心之停之之理之會老之傳之西園之出登  
今後海着兵庫安麻之跡也之京中又發動契系  
大吏毎の令法令也

十日和漢山會女例之申刻許傳立令見也之太  
之物一族之七郎長垣未却令之抄方二千人行に  
都鄙恐怖之傳中お折付ける足原不



及公我... 宿西恩邊...

十二日余伏見... 有沙和漢會及三更果...

十三日余尚有沙揚... 出基

十四日林王裏和漢法會...

十五日午後... 田樂事女例女中男元...

中書君竹... 中書君竹ゆりお沙飛...

十六日... 令日退出...

十七日... 有沙揚...

十八日... 田樂の沙返...

十九日... 巡幸各院...

二十日... 夜武家...

二十一日... 夜武家...

別殿行幸 長格 年中... 中儀着及敷献

二十三日早朝... 中儀着及敷献

中儀着及敷献

路 傳中書相大京大又出陣...

二十五日... 和漢法會...

有...

二十六日... 有沙揚...

二十七日... 有沙揚...

有...

有...

外時有... 三人對...

亦... 有...

行内之珍泉所中仰之予重親宗有嘉節在  
也之方涉外各令清之予重親胡臣漢  
上之之重庚申之涉外以收其甚到許令  
退之

十二月大

百醉情休之書涉之至如何  
吾必以系竹園有以翰

官之禁中有和候以會之十日之方之  
古之系高書有以楊之

介級以系庶苑院吟泉外書之之念者各口述外將  
庭田中或系有以連之終日之身有以

申候百之

内見

九日午後系内有涉月次以樂歲未之也女何年

各被進上一種一荷之之宿老之之洞法中

幼之之系何也之同廟也之秋系養也之在書業未也之更也  
洞解初夜之秋之退也之年中之之

盤涉洞之系何也之親也之方也洞也之共也之

株業老之白柱四之洞也之隆康伯三位也之科三位也之基觀

青海收之越天系重親資能宗友也之納也之楊也之

千秋樂也之地下

胡西院系王也之資能也之統秋胡也之景通景範也之極也之

賀慶急胡飲何破也之一都洞也之時也之也之

西古子武德也之依也之也之

凌王破胡也之也之

十日辰之三日精と来亦金卷十七廻也仍

柳全法経去之午付系向有日全の号の曹

和漢の号

十二日大之收之 高妻有於澤不系

金卷十七廻 有年三月の改其の号

依之并取也

高金の号の号

の如取執の法 の号の号 早日在指之号長老の傳

五口令指法有那之取法 の号の号 又樂有

樂を号 の号の号 三子法 の号の号 又樂有

次廻向 の号の号 又一曲奏 の号の号 執 の号の号 以後研 の号の号 如恒

柳法世 の号の号 偏素退教傳 の号の号 了 の号の号 若文 の号の号 方沙

色直 の号の号 有 の号の号 三歳也

十五日雪初降 の号の号 且衣 の号の号 初穿 の号の号 以 の号の号 血 の号の号 如例 の号の号 既解又

如例忘お後 の号の号 不 の号の号 取 の号の号

十七日晚 の号の号 以 の号の号 系 の号の号 伏 の号の号 見 の号の号 有 の号の号 涉 の号の号 祝 の号の号 非 の号の号 宮 の号の号 中 の号の号 方 の号の号 出 の号の号 發 の号の号 置 の号の号 已

十日向 の号の号 花 の号の号 井 の号の号 亭 の号の号 有 の号の号 朝 の号の号 冷 の号の号 之 の号の号 交 の号の号 恒 の号の号 柏 の号の号 本 の号の号 庄 の号の号 法 の号の号 其 の号の号 推 の号の号 舞

事 の号の号 多 の号の号 攻 の号の号 家 の号の号 法 の号の号 中 の号の号 今 の号の号 朝 の号の号 唯 の号の号 宮 の号の号 中 の号の号 方 の号の号 平 の号の号 昔 の号の号 以 の号の号 延 の号の号 生 の号の号

十九日禁 の号の号 市 の号の号 煤 の号の号 拂 の号の号 也 の号の号 傳 の号の号 中 の号の号 指 の号の号 法 の号の号 回 の号の号 合 の号の号 我 の号の号 奉 の号の号 所 の号の号 之 の号の号 責 の号の号

即 の号の号 刻 の号の号 攻 の号の号 敗 の号の号 四 の号の号 國 の号の号 示 の号の号 教 の号の号 百 の号の号 人 の号の号 打 の号の号 死 の号の号 京 の号の号 勢 の号の号 法 の号の号 勝 の号の号 法 の号の号 定

後 の号の号 来 の号の号 决 の号の号 洛 の号の号 中 の号の号 瓜 の号の号 中 の号の号 大 の号の号 飲 の号の号 日 の号の号 後 の号の号 之 の号の号 却 の号の号 鄙 の号の号 大 の号の号 慶 の号の号 也 の号の号

之 の号の号 三 の号の号 為 の号の号 父 の号の号 子 の号の号 合 の号の号 打 の号の号 死 の号の号 之 の号の号 打 の号の号 心 の号の号 市 の号の号 方 の号の号 中 の号の号 守 の号の号 以 の号の号 夏 の号の号 上 の号の号 之 の号の号

洛 の号の号 中 の号の号 思 の号の号 怖 の号の号 令 の号の号 攻 の号の号 敗 の号の号 也 の号の号 思 の号の号 之 の号の号 云 の号の号 初 の号の号 攻 の号の号 之 の号の号 何 の号の号 日 の号の号

之 の号の号 卒 の号の号 也 の号の号 為 の号の号 以 の号の号 病 の号の号

之 の号の号 卒 の号の号 也 の号の号 為 の号の号 以 の号の号 病 の号の号

之 の号の号 卒 の号の号 也 の号の号 為 の号の号 以 の号の号 病 の号の号

廿日午時系伏見より天気暖景のり子忌の鞠を  
近所を三人にて天後社にけり向田向亭有  
夕冷お伴い後系たれ商家より道遠此集被  
携て毒のの園灯をさす年由樂孟西西云方難  
後之秘刻後後各退お傳すとも抄州難後  
一向虚候と天魔と不為と洛中各均耳欲有  
と事之

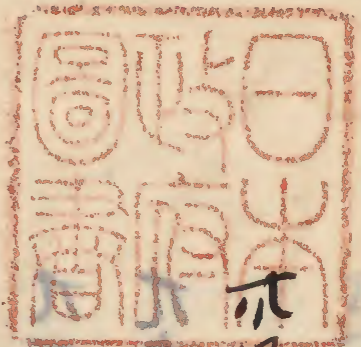
廿日禁裏御内相候とあつて上は蒙作治院  
と和の移流の故障とく入と成刻移候小  
家勸孟女形予已及早候下居且為候と午  
刻中御より為宿以後始直衣帯御を擡衣又  
息後置申お供し盤  
廿三日之倉亭擡煤午刻息息は盤置候女形

有之れ祝着しお供沙の盤令頂哉

廿四日春内中連方とて極とて南の庭へ寄り内道  
遠院を圖に一行おのお出之り一献とてお供三  
初雪の時之進上と名と朝佳例の極令と献と  
乃又巨姫宮内府下初七の所祝多きお系の内  
孟及三四献各御碎況に益と道遠退とけ  
後之始内道方時申刻候と及す未百の果  
廿五日之内為儀之具と系

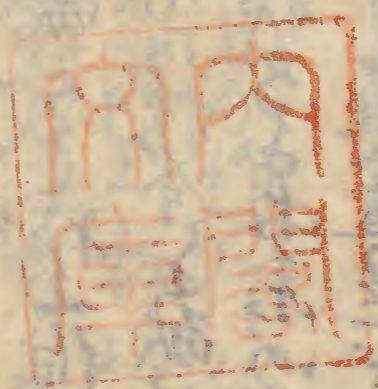
廿七日入相と系伏見より有田樂事一庭田佳例の極  
廿九日早且入風呂令系人抄の五云許事と傳中  
不日院中御へお参り去りたる遊去と上回及好  
沙代不破出頭と不と祝事と九と所之





白形(仁也)

亦日曉以近多(日)來未(未)礼(礼)令(令)巡(巡)仍(仍)度(度)亦(亦)依(依)久(久)未(未)  
竹(竹)園(園)文(文)市(市)方(方)ヨリ(ヨリ)市(市)持(持)所(所)之(之)不(不)台(台)字(字)所(所)經(經)志(志)  
之(之)列(列)又(又)系(系)以(以)礼(礼)而(而)系(系)内(内)清(清)而(而)之(之)時(時)り(り)之(之)上(上)各(各)由(由)  
一(一)け(け)後(後)亦(亦)向(向)一(一)く(く)礼(礼)が(が)法(法)三(三)回(回)清(清)射(射)而(而)也(也)位(位)入(入)  
長(長)押(押)内(内)一(一)市(市)礼(礼)一(一)退(退)出(出)之(之)中(中)之(之)少(少)時(時)也(也)一(一)  
云(云)事(事)一(一)之(之)以(以)后(后)可(可)得(得)之(之)念(念)一(一)



*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '大', '日', '市', '礼', '令', '巡', '仍', '度', '亦', '依', '久', '未', '竹', '園', '文', '市', '方', 'ヨリ', '市', '持', '所', '之', '不', '台', '字', '所', '經', '志', '之', '列', '又', '系', '以', '礼', '而', '系', '内', '清', '而', '之', '時', 'り', '之', '上', '各', '由', '一', 'け', '後', '亦', '向', '一', 'く', '礼', 'が', '法', '三', '回', '清', '射', '而', '也', '位', '入', '長', '押', '内', '一', '市', '礼', '一', '退', '出', '之', '中', '之', '少', '時', '也', '一', '云', '事', '一', '之', '以', '后', '可', '得', '之', '念', '一']*





